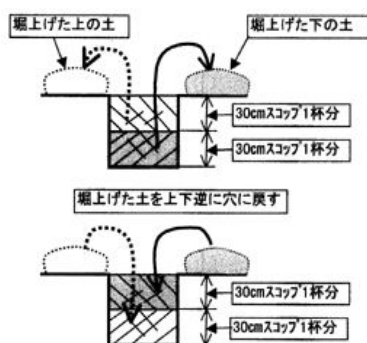


## 土並びに完熟堆肥作り



### <畑の天地返しをしましょう>

野菜を作っている畑地は地表から30cmぐらいの深さで、永い間栽培していると病害虫の発生が多くなり栽培しにくくなります。

そこで、1月～2月の寒い時期に畑地作りを行うと効果があります。

左図のように、まず、深さ30cm程度の土をスコップで左側に掘上げます、その下の同じ深さの土をスコップで逆の右側に掘り上げます。

掘られた場所に土を戻すには、最初に左側に掘上げた土を下に戻し、右に掘り上げていた土を上に戻すことで、上の土と下の土を入れ替える「天と地を変える」こととなります。

今まで使用していた病害虫のある土を下にとじ込み、新たに病害虫のない土を上側に入れ替えることになり、新しい地質になり栽培がしやすくなります。

ただ、新しい土は肥料が少ないので少し多めに肥料を施す必要があります。

### <有機肥料を入れて畑を耕しましょう>

化学肥料は水に溶ければすぐ野菜に吸収されますので、種を播く、野菜を植える時に化学肥料を簡単に利用することが出来ます。

ただ、種・苗が化学肥料に近すぎると「害」が出ますので必ず化学肥料と種・苗の間には土を約5cm以上挟んで播くようにして下さい。

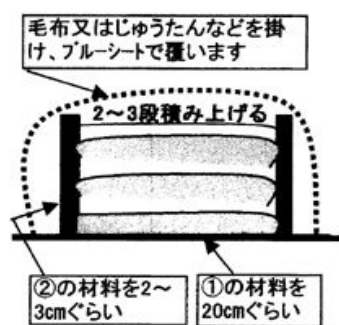
有機肥料(油粕・鶏糞・牛糞・その他数多くあります)は完熟した有機を使用するのが一番ですが生の有機を使用する場合は病害虫の発生を防止すると共に野菜に吸収するのに約3ヶ月程度かかりますので、寒い時期に畑に有機肥料を施し、スコップを利用して出来るだけ深く畑土と混ぜ、混ぜた以降は3月の下旬までに有機肥料を入れなくて2～3回スコップで耕運すると4月に果菜類を定植することは出来ます。

### <完熟堆肥を作りましょう>

広葉樹が落葉する、秋～冬の農作業の暇になる時期に行います。

材料としては、

- ①落葉・麦わら・稲わら・樹木枝・カヤなどがありますが、出来れば細断するか砕いて微生物が進入し分解し易いようにします。
- ②微生物を繁殖させるチツ系含量の多い、鶏糞・牛糞・米効などを加え、水分が50%～60%含まれるようにします。堆肥場は日当たりの良い・排水の良い・水の便が良い所を選びましょう。



左図のように、

①の落ち葉などの材料を20cm程度、その上に②の鶏糞などの材料を2～3cm入れ同じ方法で2～3段積み上げ、水をたっぷり掛けながら踏み固め最終的に1m50cm程度の高さの山を作り、古い毛布・じゅうたんなどを掛け、雨が入らないようにブルーシートで覆います。

10日～15日毎に内部の積み上げられた材料を確認し、固くなっている所をほぐし、また、乾き気味の所は水を補給しながら積み換えを行います、その後温度が上がり、白カビ状のものが発生してくればOKです。同じ間隔で2～3回繰り返すことで完熟堆肥が出来上がりますので、ブルーシートを掛けて保存すれば何時でも使用できる状態になります。完熟堆肥は畑全面にひき、また、植える時に野菜に下に入れる方法があります。

完熟堆肥を何年か使用続けていれば畑も団粒化し軟らかく水はりも良く、その上水持ちも良く、酸素も取り込みやすく、地温も上がりすばらしい畑に変化します。